

『町のカウボーイ』として 毎日新聞のおしゃれ礼賛のコーナーに掲載されました。

おしゃれ礼賛

猪股満智子

大阪府の南部、花火で有名な富田林市に「ちょっと年を取ったカウボーイがいる」と聞いてお会いしました。辻野幸雄さん(75)は、レストラン・チェーンを経営する社長さんですが、外出はいつもこの通りのウエスタン・スタイル。お陰で地元ではすっかり有名な人です。この服装を始めたのは8年前、お父さん思いの家族が兎守る中での大変身でした。

40歳で故郷の鳥根・津和野から大阪に出た辻野さんは昔、海軍で料理係をしていた経験を生かして食事を始めます。妻・千恵子さんや4人の息子さんと一致団結、大手スーパーに出店したことを皮切りに手を広げ、計25店舗、うどん、

すわりとした体にデニムの上下が似合う辻野さん。首に巻いた赤いバンダナも効いている —小関勉写真



ラーメン、トンカツの一大チェーン店をつくりあげました。商売は大成功、82歳で現場を息子らに任せ、一線を退きますが、さきにつけて、朝から晩まで調理服姿で店に立つ生活が身につについてい

る辻野さん。酒やたばこも遊びも知らない儉約家でもあり、するごとが鬼つかりませぬ。息子たちが用意した「社長室」にも座っていられず、ちゅう房をウロウロ。何とか悠々自適な老後を楽しんでも

に、おみやげに買ったカウボーイハットをかぶって帰国すると、関西国際空港の入警係の女性が「よくお似合いですね」と一言。「これだ！」とひらめいたそうです。仕事一筋の辻野さんが、富田林のカウボーイに

変身した瞬間で

その日から帽子に似合う衣服を次々とそろえ出したお父さんに、この4月に止むなられた千恵子さんはじめ家族は大喜び。河内音頭のあるさと、南大阪のノリのよさからぞしょうか、5人の息子のお嫁さんらも黙ってアレスレットだ、えり飾りだとグッズを贈って応援します。辻野さんの服装は行く先々で話題になり、電車の窓から高校生が手を振ってくれることもしばしばとか。周囲の視線を感じるのがうれしくて、毎朝服のコーディネートを楽しんでいます。「派手な感じがする若い女の子の気持ち分かるようになった。おしゃれ開眼は若い女性従業員を大勢抱える辻野さんの社長としての幅も広がりました。今日もさっそうと町を行くカウボーイを見たら気軽に声をかけて下さいね。」

町のカウボーイ、毎朝の服選びが楽しくて